

一般社団法人湯沢町観光協会
第8期（平成30年度）通常総会



期 日：平成30年6月5日（火）

会 場：湯沢パークホテル

一般社団法人湯沢町観光協会
第 8 期（平成 3 0 年度）通常総会次第

開 会

一般社団法人湯沢町観光協会代表理事挨拶

総会成立報告（定款第 2 1 条）

議長選出（定款第 2 0 条）

議事録署名人選出（定款第 2 2 条）

議 事

第一号議案 平成 2 9 年度事業報告及び決算報告について・・・・・・＞P 1 ～ 2 4
（監査報告）

第二号議案 平成 3 0 年度事業計画（案）及び予算（案）について・・＞P 2 5 ～ 3 3

第三号議案 役員の選任について・・・・・・・・・・・・・・・・・・＞P 3 4 ～ 3 6

第四号議案 借入金限度額の設定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・＞P 3 7

第五号議案 その他

閉 会

第一号議案

平成29年度事業報告

平成29年の日本経済は、米国のトランプ政権発足や北朝鮮状況の逼迫化、東京都議選と総選挙をめぐる政局の変動など、国際状況や政治に大きく揺れ動く中でも危なげなく推移し、穏やかな回復傾向が続いたと報道されています。事実、実質国内総生産成長率は1.9%、名目国内総生産成長率は2.0%程度の上昇が見込まれています。又、雇用環境も改善傾向にあり、有効求人倍率や失業率はいわゆるバブル期に匹敵するまでになっています。

しかしながら、「いざなぎ景気」の頃のような高度経済成長期とは異なり、現在の景気拡大は少子高齢化や人口減少による市場の縮小もあり、「実感は乏しい」という声もあります。

又、大都市や大企業に比べると地方での好況感は乏しく、未だに厳しい環境下にあると思われまふ。

観光においては、順調な国外客に対して低調な国内客と言える一年でした。

訪日外国人客が前年に史上初めて2,000万を突破した後、平成29年は対前年比119.3%・2,869万人、旅行消費額は4.4兆円(前年比118.9%)までに伸長しました。

一方、日本人国内旅行消費額は、宿泊旅行で0.1%・日帰り旅行で2.6%・全体では0.7%の対前年の増加率に留まっております。

訪日客は地方へも足を運ぶようになっており、地方の伸び率は116%までになる等、いわゆるインバウンド景気は各地で好影響を与える状況にあります。国内客低迷の要因は、経済状況よりは少子高齢化人口減による市場縮小によるものと考えられ、大きな課題となっています。

その様な状況の下、当協会では継続事業の充実化と見直しに加えて、情報発信事業やトレッキングルートの整備・道標設置事業とFRF協賛事業など、今後の展開を踏まえた事業を展開して参りました。

当町観光の最大市場である首都圏対応策としては、冬季観光の強化と併せ、サマースキーや春季ドラゴンドラ営業等の新コンテンツを中心に広報活動を強化する事とし、情報発信を心掛けました。

インバウンド対策は、平成21年から第一期を、24年からは第二期計画で推進し、本年度は委員会中心に第三期以降の戦略を考察して従前以上の展開を図って参りました。

又、昨今の労働市場においてはコンプライアンス遵守や職場環境の整備等が強く求められています。人材確保と育成、労働生産性向上には今課題克服が必須であり、改めてその改善に取り組みたいと考え、検討委員会での議論からそれを実行致しました。

住宅宿泊事業法(民泊新法)は国会審議を経て平成30年の6月に施行される事となりましたが、観光の町湯沢の基幹産業である宿泊業界の健全な成長と、町民と観光客の安心安全の確保という立場で、対応してきました。

以下、各事業別の御報告を申し上げます。

旅行は個人
でもない } バラエティ
団体も77% }

大ラエーシント また、
じかん、らくてん
エクステリア、パルク
海外のネットエージェンツ

平成29年度湯沢町観光客数

1、目的別観光客数（単位：人）

目 的 別	平成29年度	平成28年度	対前年比（%）
温 泉	991,400	1,008,800	98.3
名 所 旧 跡	44,000	65,200	67.5
ス キ ー	2,439,800	2,472,900	98.7
登 山	29,700	37,200	79.8
レ ジ ャ ー	380,200	451,800	84.2
行 事	158,100	162,300	97.4
文 化 施 設	37,600	27,700	135.7
釣り・キャンプ	20,300	19,100	106.3
ス ポ ー ツ	151,200	153,200	98.7
合 計	4,252,300	4,398,200	96.7

文化施設とキャンプを除くと全ての部門で前年を下回るという厳しい結果となった。天候に左右された一年であった。

グリーンシーズンのレジャー期である夏季・秋季は、週末中心に天候に恵まれなかったことから、名所旧跡・レジャー・登山などで減少した一方、インドア施設の文化施設は大きく前年を超えた。

スキー場部門は、春スキーは異常小雪だった前年をクリアしたもの、シーズンに入り予想外の苦戦となった。県内下越地方の列車立往生や首都圏と北陸地方の大雪による混乱が大きく報道されたことから、出控えや近隣スキー場への方面変更等が発生し、その事が当地に悪影響を及ぼした。

当町観光の特性から天候の問題はいかんともしがたいが、冬季シーズンの首都圏宣伝や広報活動の再検討等を進めたい。

2、外国人宿泊数（単位：人）

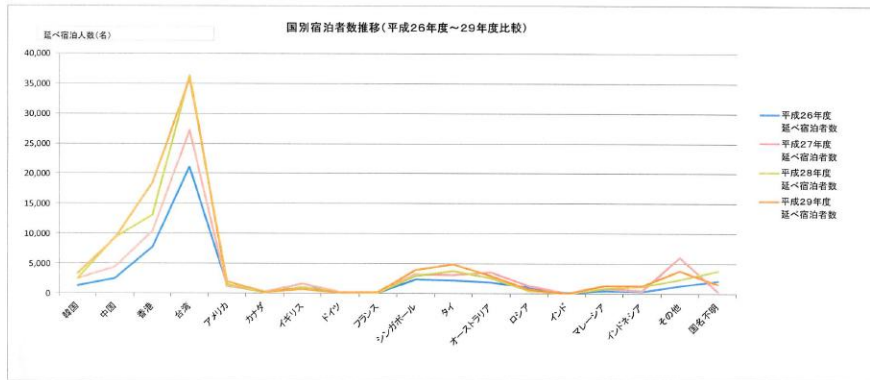
部 門	区 分	平成29年度	平成28年度	対前年比	順位変動
外国人宿泊客(人)	総 合 計	91,413	82,968	109.9	
国別宿泊数 上位7カ国	台 湾	35,937	36,404	98.4	1 > 1
	香 港	18,527	13,181	140.4	2 > 2
	中 国	9,193	9,362	98.1	3 > 3
	タ イ	4,960	3,794	130.7	4 > 4
	シンガポール	3,974	3,000	132.5	5 > 5
	韓 国	3,340	2,554	130.5	7 > 6
	オーストラリア	3,033	2,631	115.3	6 > 7

上記の冬の状況を反映してか、増加はしたものの対前年比伸び率に鈍化の兆しが見える。

台湾と中国の苦戦は大型施設でのツアーの減少が主要因である。その他上位国は依然として順調に推移しているが、キャンペーン効果に加えてSNSによる情報力とその背景にあると思われる。

外国人観光客 国別延べ宿泊者数推移(平成26年度～29年度比較)

	韓国	中国	香港	台湾	アメリカ	カナダ	イギリス	ドイツ	フランス	シンガポール	タイ	オーストラリア	ロシア	インド	マレーシア	インドネシア	その他	国名不明	合計
平成26年度 延べ宿泊者数	1,289	2,547	7,789	21,148	1,600	121	1,721	83	149	2,366	2,253	1,888	1,120	102	486	368	1,315	2,137	48,482
平成27年度 延べ宿泊者数	2,529	4,503	10,457	27,229	1,266	298	1,725	217	285	3,265	3,187	3,582	1,330	75	850	543	6,064	365	67,770
平成28年度 延べ宿泊者数	2,554	9,362	13,181	36,404	1,568	210	1,084	111	159	3,000	3,794	2,631	463	65	829	1,189	2,458	3,906	82,968
平成29年度 延べ宿泊者数	3,340	9,193	18,527	35,937	2,076	263	708	132	232	3,974	4,960	3,033	807	74	1,393	1,373	3,814	1,577	91,413



※「外国人観光客宿泊受入調査用紙」宿泊施設に、調査。グラフ対象は調査用紙返信者のみ。

サンプル数：「ホテル・旅館(収容人数100名以上の宿泊施設)」…19軒、「民宿・ペンション」…22軒 計41軒。(前年比+3軒)

宿泊施設によっては、昨年度提出時とは外国人宿泊数の算出方法等が違う等、比較対象の意味では確実な数値とは言えない旨をご了承下さい。

湯沢町観光協会調べ

平成30年4月

3、スキー場利用客数（単位：人）

月	内 訳	平成29年度	平成28年度	対前年比（%）
4月	日 本 人	111,450	73,300	152.0
	外 国 人	13,250	7,300	181.5
	計	124,700	80,600	155.8
5月	日 本 人	48,000	15,200	315.8
	外 国 人	1,800	0	
	計	49,800	15,200	327.6
11月	日 本 人	10,400	3,600	288.9
	外 国 人	300	100	300.0
	計	10,700	3,700	289.2
12月	日 本 人	278,350	309,500	89.9
	外 国 人	23,650	22,700	104.2
	計	302,000	332,200	90.9
1月	日 本 人	632,950	711,300	89.0
	外 国 人	41,250	44,400	92.9
	計	674,200	755,700	89.2
2月	日 本 人	647,045	655,800	98.7
	外 国 人	40,055	39,000	102.7
	計	687,100	694,800	98.9
3月	日 本 人	564,960	566,900	99.7
	外 国 人	26,340	23,800	110.7
	計	591,300	590,700	100.1
合 計	日 本 人	2,293,155	2,335,600	98.2
	外 国 人	146,645	137,300	106.8
	計	2,439,800	2,472,900	98.7

上述の通り、ある意味風評被害的な影響から苦戦した。

外国人スキー場利用客数は146,645人・対前年度比106.8%で、伸長はしたもの伸び率は過去6年間で最も低水準となった。やはり上記要因によるものと思われる。それでも年々シェアは上がっており、各スキー場にとっては重要な存在になりつつある。

4、スキー場利用客数と外国人観光客数（単位：人）

1）スキー場利用客数推移（全体）

年 度	人 数（人）	対前年比（％）	備 考
平成21年度	2,495,100		12月小雪
平成22年度	2,099,100	84.1	3月東日本大震災
平成23年度	2,347,500	111.8	
平成24年度	2,567,200	109.4	
平成25年度	2,394,100	93.4	2月首都圏大雪
平成26年度	2,569,000	107.3	3月北陸新幹線開
平成27年度	2,462,700	95.9	記録の少雪
平成28年度	2,472,900	100.4	年末小雪
平成29年度	2,439,800	98.7	風評

2）外国人スキー場利用客数推移

年 度	人 数（人）	対前年比（％）
平成21年度	31,800	
平成22年度	28,000	88.1
平成23年度	29,000	103.4
平成24年度	36,000	124.1
平成25年度	40,100	111.4
平成26年度	70,700	176.3
平成27年度	106,550	150.7
平成28年度	137,300	128.9
平成29年度	146,645	106.8

3）外国人宿泊者数推移

年 度	人 数（人）	対前年比（％）
平成21年度	19,711	
平成22年度	21,038	106.7
平成23年度	15,890	75.5
平成24年度	21,842	137.5
平成25年度	26,016	119.1
平成26年度	48,482	186.4
平成27年度	67,866	140.0
平成28年度	82,968	122.2
平成29年度	91,197	109.9

4）平成29年と21年との比較（伸長率）

訪日観光客数	当町外国人スキー場利用客数	当町外国人宿泊者数
422.5％	461.1％	462.7％

広域観光情報センター 平成29年度 訪問客数

年度別来客集計

月	種別	平成25年度	前年度比	平成26年度	前年度比	平成27年度	前年度比	平成28年度	前年度比	平成29年度	前年度比
4月	日本客	1,204	88.7%	1,313	109.1%	951	72.4%	1,071	112.6%	515	48.1%
	外国人	170	118.1%	305	179.4%	663	217.4%	957	144.3%	724	75.7%
	合計	1,374	91.5%	1,618	117.8%	1,614	99.8%	2,028	125.7%	1,239	61.1%
5月	日本客	1,713	98.4%	1,778	103.8%	1,812	101.9%	1,439	79.4%	946	65.7%
	外国人	74	83.1%	97	131.1%	106	109.3%	233	219.8%	201	86.3%
	合計	1,787	97.7%	1,875	104.9%	1,918	102.3%	1,672	87.2%	1,147	68.6%
6月	日本客	1,186	80.4%	1,644	138.6%	1,332	81.0%	1,025	77.0%	714	69.7%
	外国人	51	164.5%	35	68.6%	46	131.4%	88	191.3%	105	119.3%
	合計	1,237	82.1%	1,679	135.7%	1,378	82.1%	1,113	80.8%	819	73.6%
7月	日本客	1,746	88.2%	1,739	99.6%	2,027	116.6%	1,458	71.9%	1,028	70.5%
	外国人	139	85.8%	193	138.8%	237	122.8%	267	112.7%	361	135.2%
	合計	1,885	89.0%	1,932	102.5%	2,264	117.2%	1,725	76.2%	1,389	80.5%
8月	日本客	3,309	91.2%	3,692	111.6%	3,697	100.1%	2,571	69.5%	2,005	78.0%
	外国人	59	222.6%	65	94.2%	149	229.2%	171	114.8%	189	110.5%
	合計	3,378	92.3%	3,757	111.2%	3,846	102.4%	2,742	71.3%	2,194	80.0%
9月	日本客	1,764	66.3%	1,951	110.6%	2,285	117.1%	1,373	60.1%	1,023	74.5%
	外国人	67	176.3%	86	128.4%	125	145.3%	178	142.4%	142	79.8%
	合計	1,831	67.8%	2,037	111.3%	2,410	118.3%	1,551	64.4%	1,165	75.1%
10月	日本客	1,876	104.8%	2,211	117.9%	2,088	94.4%	1,421	68.1%	1,400	98.5%
	外国人	72	167.4%	44	61.1%	134	304.5%	201	150.0%	256	132.3%
	合計	1,948	106.3%	2,255	115.8%	2,222	98.5%	1,622	73.0%	1,656	102.7%
11月	日本客	1,920	99.8%	1,872	97.5%	1,845	98.6%	1,037	56.2%	1,176	113.4%
	外国人	83	131.7%	129	155.4%	118	91.5%	237	200.8%	370	156.1%
	合計	2,003	100.8%	2,001	99.9%	1,963	98.1%	1,274	64.9%	1,546	121.4%
12月	日本客	2,148	112.5%	2,074	96.6%	1,190	57.4%	999	83.9%	1,015	101.6%
	外国人	832	223.7%	1,331	160.0%	1,801	135.3%	1,628	90.4%	1,879	115.4%
	合計	2,980	130.6%	3,405	114.3%	2,991	87.8%	2,627	87.8%	2,894	110.2%
1月	日本客	2,698	92.2%	2,746	101.8%	1,755	64.3%	1,501	85.0%	1,752	116.7%
	外国人	833	178.0%	1,257	150.9%	1,752	140.2%	2,042	115.9%	1,802	88.2%
	合計	3,531	104.0%	4,003	113.4%	3,527	88.1%	3,543	100.5%	3,554	100.3%
2月	日本客	2,895	100.6%	2,716	94.1%	2,142	78.9%	1,583	73.9%	1,584	100.1%
	外国人	738	165.1%	1,287	174.4%	1,492	115.9%	1,328	89.0%	1,604	120.8%
	合計	3,633	109.3%	4,002	110.5%	3,634	90.8%	2,911	80.1%	3,188	109.5%
3月	日本客	2,181	86.7%	2,222	101.9%	1,584	71.3%	1,250	78.9%	1,340	107.2%
	外国人	402	135.4%	665	165.4%	785	118.0%	759	96.7%	877	115.5%
	合計	2,583	91.8%	2,887	111.8%	2,369	82.1%	2,009	84.8%	2,217	110.4%
合計	日本客	24,661	92.1%	25,957	105.3%	22,718	87.5%	16,728	73.6%	14,498	86.7%
	外国人	3,530	142.2%	5,494	155.6%	7,418	135.0%	8,089	109.0%	8,520	105.3%
	総合計	28,191	96.3%	31,451	111.6%	30,136	95.8%	24,817	82.4%	23,018	92.8%

3年連続で総訪問客・日本人数が減少している一方、外国人は依然として増加中である。
総訪問客数は最盛期であった26年度に比べ8,433人の減・73.2%、日本人は同じく11,459人の減・55.9%までに減少した。

外国人は4・12・1・2月の各月ともに日本人を上回り、年計でも37%を占めるに至っているが、英語対応面での苦情等はほぼ無く、一定以上のサービスは提供できていると思われるものの、今後も努力していきたい。

スマホやSNSの急発展と浸透はあらゆる面で劇的な変化をもたらしているが、それでもフェイス・to・フェイスのサービスは重要であり、さらなるレベルアップに向けて努力したい。

国別 年間総合ランキング

H27年度4月～H27年度3月

順位	国名	人数	前年度比
1	台湾	1,448	134.8%
2	タイ	987	163.1%
3	中国	553	122.6%
4	シンガポール	516	143.7%
5	香港	482	212.3%
6	豪州	443	79.5%
7	米国	359	119.7%
8	インドネシア	299	378.5%
9	韓国	242	153.2%
10	マレーシア	202	98.1%
11	フィリピン	84	240.0%
12	インド	56	193.1%
13	英国	54	105.9%
14	ニュージーランド	34	141.7%
15	フランス	31	81.6%
16	ブラジル	29	263.6%
17	ドイツ	23	57.0%
17	カナダ	23	71.9%
18	ロシア	17	121.4%
19	スイス	13	325.0%
20	スペイン	10	-
20	オランダ	10	111.1%
21	イタリア	9	81.8%
21	ガーナ	9	-
22	フィンランド	8	800.0%
23	ベトナム	5	166.7%
24	ナイジェリア	4	-
24	メキシコ	4	66.7%
25	ベルギー	3	100.0%
25	アルゼンチン	3	18.8%
26	ハンガリー	2	-
26	イラン	2	-
26	アラブ首長国連邦	2	-
26	ポーランド	2	-
26	コロンビア	2	-
27	トルコ	1	50.0%
27	スウェーデン	1	14.3%
27	デンマーク	1	50.0%
27	ノルウェー	1	16.7%
27	クロアチア	1	33.3%
27	チリ	1	-
27	ペルー	1	-
	その他アジア	977	120.3%
	その他ヨーロッパ	216	126.3%
	その他アフリカ	14	-
	その他北アメリカ	0	-
	その他南アメリカ	2	22.2%
	その他オセアニア	1	-
	地域不明	249	169.4%
	総合計	7,418	135.0%

H28年度4月～H28年度3月

順位	国名	総合計	前年度比
1	台湾	1303	90.0%
2	タイ	1138	115.3%
3	香港	457	94.8%
4	豪州	389	83.3%
5	中国	355	64.2%
6	シンガポール	297	57.6%
7	インドネシア	273	91.3%
8	マレーシア	248	122.8%
9	米国	222	61.8%
10	韓国	197	81.4%
11	フィリピン	129	153.6%
12	英国	90	166.7%
13	インド	84	150.0%
14	フランス	30	96.8%
15	カナダ	19	82.6%
16	ドイツ	13	56.5%
17	スイス	12	92.3%
18	ニュージーランド	10	29.4%
19	スリランカ	8	-
20	ロシア	6	35.3%
21	イスラエル	5	-
21	アイルランド	5	-
22	ネパール	4	-
22	イタリア	4	44.4%
22	ブラジル	4	13.8%
22	アルゼンチン	4	133.3%
23	オランダ	3	30.0%
23	オーストラリア	3	-
24	サウジアラビア	2	-
24	アラブ首長国連邦	2	100.0%
24	フィンランド	2	25.0%
24	ポーランド	2	100.0%
24	ギリシャ	2	-
24	南アフリカ共和国	2	-
25	マカオ	1	-
25	スペイン	1	10.0%
25	スウェーデン	1	100.0%
	その他アジア	2218	227.0%
	その他ヨーロッパ	244	113.0%
	その他アフリカ	2	14.3%
	その他北アメリカ	0	-
	その他南アメリカ	4	200.0%
	その他オセアニア	0	0.0%
	地域不明	316	126.9%
	総合計	8,089	109.0%

H29年度4月～H29年度3月

順位	国名	総合計	前年度比
1	台湾	1,874	143.8%
2	タイ	1,169	102.7%
3	香港	754	165.0%
4	豪州	574	155.6%
5	シンガポール	439	147.8%
6	中国	402	113.2%
7	インドネシア	356	130.4%
8	韓国	269	136.5%
9	マレーシア	251	101.2%
10	米国	216	97.3%
11	インド	115	136.9%
12	フィリピン	108	83.7%
13	英国	68	75.6%
14	ドイツ	40	307.7%
15	ブラジル	20	500.0%
16	メキシコ	18	-
17	フランス	17	56.7%
18	カナダ	14	73.7%
19	ニュージーランド	11	110.0%
20	ベトナム	8	-
21	イタリア	6	150.0%
21	ロシア	6	100.0%
21	アイルランド	6	120.0%
22	ネパール	5	125.0%
22	オランダ	5	166.7%
22	ポーランド	5	250.0%
23	オーストラリア	4	133.3%
23	コロンビア	4	-
24	アラブ首長国連邦	3	150.0%
24	スイス	3	25.0%
25	サウジアラビア	2	100.0%
25	スペイン	2	200.0%
25	ノルウェー	2	-
26	スリランカ	1	12.5%
26	フィンランド	1	50.0%
26	ベルギー	1	-
26	デンマーク	1	-
26	南アフリカ共和国	1	50.0%
26	アルゼンチン	1	25.0%
26	チリ	1	-
	その他アジア	1,490	67.2%
	その他ヨーロッパ	143	58.6%
	その他アフリカ	3	150.0%
	その他北アメリカ	35	-
	その他南アメリカ	1	25.0%
	その他オセアニア	5	-
	地域不明	60	19.0%
	総合計	8,520	105.3%

上位順位にほとんど変動はないが、前年減少した各国、台湾・香港・豪州・シンガポールなどが大幅増で復帰した。一方、宿泊者数との関係性を見るに、タイの動向は興味深い。宿泊者数では4位で香港の約4分の1程度であるが、広域観光情報センター訪問客数は過去3年にわたって2位の位置にあって、香港よりは倍近く多い。ガラヤ桜見物の日帰り客が多い可能性がある。

平成29年度広域観光情報センター販売実績（前年度対比）

	平成29年度		平成28年度		対前年比
来客数	23,018		24,817		92.8%
	件数合計	金額合計	件数合計	金額合計	金額合計 対前年比
宅配	819	1,360,600	725	984,801	138.2%
荷物預り	1,100	550,000	1,003	501,500	109.7%
外湯めぐり	17	25,500	20	30,000	85.0%
ゆうゆう号チケット	317	142,650	347	156,150	91.4%
大地の芸術祭パスポート	22	44,000	48	96,000	45.8%
大地の芸術祭マップ	21	2,100	34	3,400	61.8%
十日町雪まつりパスポート	6	15,000	9	22,500	66.7%
越後妻有雪花火チケット			16	24,000	0.0%
魚沼酒祭りチケット			12	12,400	0.0%
ぶらりはしご酒			11	32,200	0.0%
充電器	303	60,600	325	65,200	92.9%
コインPC	454	45,400	480	48,000	94.6%
合計	3,059	2,245,850	3,030	1,976,151	113.6%

各種チケット類の販売は軒並み減少したが宅配や荷物預かり業務が増加し、トータル扱い高は伸長した。

ただ、ストック場所が狭い為に荷物預かりを制限するケースが多い。今後も駅等に拡張を働きかけたい。

新年度はゆうゆう号廃止や一部取扱品目の見直しから減少要因もある一方、「大地の芸術祭」開催年度であり、関連チケット販売等が増加するものと予想される。積極的に対応したい。

外貨両替機の導入を計画したが、駅規約上難しいとの理由から実現できなかった。尚、越後湯沢温泉観光協会では外貨両替業務を開始した。

湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」事業報告

1、入館者数及び入館料収入について

○入館者数

	平成 28 年度	平成 29 年度	対前年比
個人（大・小）	7,637	8,411	110.1%
団体（大・小） （組数 39）	789	（組数 56） 1,296	164.3%
割引（大・小）	2,126	2,104	99.0%
無料・セット券	1,946	2,025	104.1%
合 計	12,498	13,836	110.7%

○入館料収入

	平成 28 年度	平成 29 年度	対前年比
当初予算額			
指定管理料	9,000,000	9,000,000	100.0%
入館料収入	4,657,500	5,208,250	111.8%
自主・物販事業	886,975	1,281,665	144.5%
合計	14,544,475	15,489,915	106.5%

2、事業について【今年度を以って1期目（H25年度からH29年度まで）が終了】

1）特別展の開催

- 春季特別展 テーマ／「日本最古級“敷石住居跡”の実物展示」
- 夏季特別展 テーマ／「外山康雄 野の花館、湯沢で咲く」
- 秋季特別展 テーマ／「湯沢の歴史と文化を語る」
- 冬季特別展① テーマ／高橋 貞良 油彩画展「なつかしい家屋」
- 冬季特別展② テーマ／「雲蝶と源太郎 写真パネル展」

2）企画事業の実施

- 中島すい子～石川雲蝶のロマン～バスツアーの実施
バスで瑞祥庵（仁王尊）などを見学する企画。県内外から29名の参加。
- 「出前講座」の開催
新潟県立歴史博物館の専門研究員・宮尾亨さんによる「出前講座」を開催。
- 8月「子ども」無料入館対応
- 「中島すい子、石川雲蝶を語る。彫刻・新酒・新米をたっぷり味わうツアー」
六日町観光協会との共催にて実施（1泊2日）
- 「秋の湯沢高原で石仏に出会うツアー」企画・実施
公民館の「里山の魅力探し」公開講座の特別編として企画
- 「池田家コンサート」企画・実施
三国街道三俣宿脇本陣跡の池田家でクラシックギターのコンサートを開催
- 広域連携事業 観光圏事業として文化施設連携事業を実施

1、春季企画

- タイトル : 「越後湯沢花水木 Facebook フォトコンテスト」
 実施期間 : 春季 4月22日～6月30日
 夏季 7月1日～8月31日
 秋季 9月1日～11月30日
 応募者 : 143作品(前年度101作品)
 概要 : 春・夏・秋のそれぞれに花・水・木のテーマを設定し実施を行った。応募作品ベースで前年対比142%の結果となった。
 宣伝媒体 : VITA湯沢40号(観光情報ニュース) BSN「なじらて」生放送出演
 新潟日報(全5段広告) 新潟日報(おむす便) 文化放送60秒生CM
 文化放送にくまるジャパン出演バブ FM新潟特別告知企画

2、夏季企画

- タイトル : 「レルヒさんを探せ」
 開催期間 : 7月15日～9月30日
 開催地 : 湯沢町
 主催 : 一般社団法人湯沢町観光協会
 協力 : 東日本旅客鉄道(株)新潟支社・(株)トッキー・(株)ガーラ湯沢・
 JR東日本レンタリース(株)・東日本高速道路(株)新潟支社
 応募者 : 815人(モバイルを含む合計。前年応募者745人、対前年比109%)
 概要 : 前年に続き、ゆうゆう号の利用促進を図る為、ゆうゆう号コースと広域コースを設定し実施。前年同様にJR東日本管内の業務枠ポスター掲示、NEXCO東日本新潟支社及び関連支社管轄を含む栃木、埼玉、群馬、長野、新潟の5県44ヶ所のSA及びPA等に配置頂いた。(湯沢管理事務所にご協力頂き、無償実施)
 宣伝媒体 : VITA湯沢41号(観光情報ニュース) VITA湯沢41号(広告出稿)
 フリーペーパー雪国うおめまMAP 朝日新聞「湯沢町」特集
 BSN夏旅(BSN、テレビ埼玉) フェイスブック広告
 FM新潟特別告知企画 NACK5サマースペシャルスポット企画
 文化放送にくまるジャパン企画

3、サマースキー振興策

湯沢町内にある2つのサマーゲレンデを広くPRするため、夏季企画とも連携させ、ラジオ及びWEBにて発信・展開を行った。県外から問い合わせもあり、関連地域及びターゲットに有効な発信ができたと考えている。

4、秋季企画

- タイトル : 「3大ロープウェイラッキースクラッチ」
 実施期間 : 10月7日～11月5日
 応募者 : 604人
 (前年はスタンプラリーを実施。応募者162人。前年対比373%)

- 概要：湯沢町の誇る3つのロープウェイをフックとして、町内への周遊を促進させる企画として実施した。ロープウェイチケットを購入された方にスタンプカードを配布し、出た内容によって参画施設に於けるサービスの享受または抽選賞品に応募できるというもの。リピート率の向上を図る為、施設のサービスは利用期限を3月31日までとして実施した。
- 宣伝媒体：VITA 湯沢42号（観光情報ニュース）フェイスブック広告
文化放送タイアップ企画 秋季プロモーション用映像撮影（株式会社4CYCLE）

5、「まちかん広報」事業

- 目的：協会員との情報の共有化や交流強化を目的に、広報紙の発行を行った。
- 事業：第1回 平成30年1月1日発行
役員改選の年であった事もあり、委員の再選出から確定までの時間があつたことから、年1回の発行にとどまった。

6、HP 管理運営事業

最適な環境下での情報発信を行えるHPを整備し、誘客促進を図ることを目的として実施した。

英語・韓国語・中国語（繁体字）・中国語（簡体字）HPの刷新作成とインドネシア語・タイ語・日本語ページのコンテンツ表記統一化とモバイル最適化作業を行なった。また、モバイル対応を図るとともに、ページ改修による最新コンテンツ発信や動画による観光情報発信を強化した。

スキー観光活性化委員会

1、スキーイベント参加事業

実施期間	イベント名	会場	参加団体
10/28～29	神田スポーツまつり	靖国通り	苗場かぐら観光協議会
11/11～12	WINTER SPORTS FESTA	東京ビッグサイト	湯沢町観光協会
11/11～12	J SBC スノーボード天国	宇都宮マロニエプラザ	越後湯沢温泉観光協会
12/8～10	WINTER SPORTS FESTA	朱鷺メッセ	越後湯沢温泉観光協会
12/9～10	J SBC スノーボード天国	さいたまスーパーアリーナ	湯沢町観光協会
12/23～24	J SBC スノーボード天国	グリーンドーム前橋	湯沢町観光協会

2、冬季企画

- タイトル：「湯沢冬花火ロケットリー」
- 実施期間：12月30日～3月24日
- 実施内容：冬花火の認知度向上も目的として実施。当日のみ会場に掲示されるキーワードをスマートフォンで特設サイトに記入するとくじの引換画面が表示され、広域観光情報センターでくじ引きが行えるというもの。再来訪の促進も考えた企画として実施した。

期間として広報しているが、実際に参加（登録）できる日付は、冬花火当日のみの13日間の結果となる。

抽選については、必ず翌日以降となる為、抽選人数の方は、宿泊またはリビートに結び付けることのできた人数となっており、この率は非常に高いものとなった。

参加者：登録者数 147人(前年※ 登録者数 321人、前年対比 46%)

※前年はモバイルスタンプラリーを実施。

抽選者数 91人 (宿泊またはリビート率 62%)

宣伝媒体：VITA43号(観光情報ニュース VITA43号(広告出稿)
スノー・ジャパン特別広告(リゾートスポットライト) 英語版宣伝費
観光情報ニュース(VITA抜き刷り) 越後湯沢駅構内装飾
ポスター制作(スキー、冬花火) フェイスブック広告
ユーチューブ動画 新潟日報(ウインターナビ)

3、冬季総合パンフレット

前年同様に雑誌社(スキーグラフィック)とのタイアップで制作し、湯沢町が推進する「ふるさと納税」や「移住・定住促進」事業の紹介も紙面に反映させた。

4、冬花火

前年から変更した花火制作会社「北原煙火店」と契約し、平成29年度についても実施した。昨年同様、高い評価を受けることができています。

インバウンド誘致委員会

本年度も湯沢町単独その他、新潟県や5協会(新潟・佐渡・みなかみ・高崎・湯沢)、そして十日町市やみなかみ町との連携で、訪問と招聘事業を積極的に実施した。

中でも、町長や議長並びに観光関係者が参加した官民インドネシア訪問ミッションでは、ジャカルタ州知事をはじめとした各界の有力者とも面談などが叶い、今後に大きな成果が期待できる。

1、中国事業

○訪問事業

実施日：9月7日～9月12日

主催：湯沢町(一般社団法人湯沢町観光協会)、十日町市

参加者：インバウンド誘致委員長・同副委員長・ガーラ湯沢・十日町市・一般社団法人十日町市観光協会・当協会(上村信男、貝瀬健太)

事業：十日町市との連携事業として、中国第3位の市場である広州で開催された旅行博覧会に初めて出展した。
併せて、南京及び上海を訪問しセールスコール及び現地エージェンツとの交流会を実施した。

○招聘事業

1) 中国黒龍江省教育関係者招聘事業

実施日：4月16日

主催：新潟県

内容：町内視察(体験工房、ガーラ湯沢スキー場、湯沢学園など)

- 2) 日本航空・中国旅行関係者招聘事業
 実施日 : 5月17日
 主 催 : 新潟県
 内 容 : 町内視察(かぐらスキー場、苗場プリンスホテル、駅構内など)
- 3) 中国黒龍江省小学生修学旅行招聘事業
 実施日 : 7月11日
 主 催 : 新潟県
 内 容 : 湯沢学園訪問
- 4) 中国旅行攻略サイトを活用した北関東磐越5県PR事業
 実施日 : 8月21日
 主 催 : 北関東磐越5県広域推進協議会(VJ事業)
 内 容 : 町内視察(ぼんしゅ館など)
- 5) ハルビン旅行関係者招聘事業
 実施日 : 11月11日
 主 催 : 新潟県
 内 容 : 町内視察(スキー場など)
- 6) 中国宜興市教育旅行関係者招聘事業
 実施日 : 3月13日
 主 催 : 新潟県
 内 容 : 町内視察(ガーラ湯沢、高半、NASPA など)

○その他事業

中華人民共和国駐新潟総領事館関連の事業などを展開した。

2、台湾事業

○訪問事業

- 実 施 : 10月26日～10月31日
 主 催 : 新潟県
 参加者 : 当協会(林絵梨、中村里紗子)
 事 業 : 新潟県が中心となって出展した「台北国際旅行博」に同行。湯沢町のPRを行なった。また、併せて実施された商談会においても湯沢町のPRを行なった。

○招聘事業

- 1) 台湾旅行代理店招聘事業
 実施日 : 4月23日
 主 催 : 新潟県
 内 容 : 町内視察(がんぎどおり、ぼんしゅ館など)
- 2) 台湾旅行代理店招聘事業
 実施日 : 11月24日
 主 催 : 佐渡・新潟観光推進協議会
 内 容 : 町内視察(ぼんしゅ館など)
- 3) 台湾エージェント招聘事業
 実施日 : 12月5日
 主 催 : 北陸信越運輸局
 内 容 : 町内視察(ぼんしゅ館など)

3、韓国事業

○訪問事業

実施日 : 9月3日～9月5日
主 催 : 新潟県
参加者 : 当協会（岩瀬千草）
事 業 : 新潟県が毎年行なっている韓国訪問キャンペーンに同行した。ソウル市内の旅行エージェント訪問や商談会、交流会などに参加した。

○招聘事業

韓国 TV 関係者招聘事業

実施日 : 4月9日
主 催 : 新潟県
内 容 : テレビ取材対応

4、タイ事業

○訪問事業

実施日 : 9月21日～9月26日
主 催 : 湯沢町（一般社団法人湯沢町観光協会）、十日町市、みなかみ町
参加者 : インバウンド誘致副委員長・ガーラ湯沢・NASPA ニューオータニ・十日町市、一般社団法人十日町市観光協会・ひなの宿ちとせ・みなかみ町・みなかみ町観光協会・ホテルサンバード・当協会（大口尚親）
事 業 : 十日町市及び、みなかみ町との連携事業として実施。FIT 向けの旅行博覧会に出展し、広域での観光 PR を行った。

○招聘事業

タイムメディア招聘事業

実施日 : 7月30日
主 催 : 新潟県（上信越連携）
内 容 : 町内視察（体験工房、湯沢高原など）

5、インドネシア事業

○訪問事業

実施日 : 1月9日～1月12日
主 催 : 湯沢町（一般社団法人湯沢町観光協会）
参加者 : 田村正幸町長・南雲正湯沢町議会議長・南雲剛部長・インバウンド誘致委員長・同副委員長・ガーラ湯沢・当協会（小林庄一会長・上村・諸田）
事 業 : 田村町長、南雲議長に参加いただき湯沢町単独でのトップセールスを実施。ジャカルタ州知事との面談、バンチャシラ大学観光学部・工学部訪問、ジェトロ及び JNTO 現地関係者との懇談、インドネシア旅行業協会関係者との面談、現地メディアからの取材対応、現地旅行エージェント訪問などの事業を展開した。

○招聘事業

1) インドネシア大使館エコ公使参事官招聘事業

実施日 : 2月24日
主 催 : 湯沢町（一般社団法人湯沢町観光協会）
内 容 : 町内視察（ガーラ湯沢、いちご村など）

2) インドネシア旅行会社ディタ社長招聘事業

実施日 : 3月16日

主 催 : 湯沢町(一般社団法人湯沢町観光協会)

内 容 : 町内及び南魚沼市内視察(ガーラ湯沢、牧之通りなど)

3) インドネシア法務人権省ニニ氏招聘事業

実施日 : 3月25日

主 催 : 湯沢町(一般社団法人湯沢町観光協会)

内 容 : 町内視察(NASPA、温泉通り、ぼんしゅ館など)

6、フィリピン事業

○訪問事業

実施日 : 11月21日から11月24日

主 催 : 湯沢町(一般社団法人湯沢町観光協会)

参加者 : インバウンド誘致委員長・苗場プリンスホテル・ガーラ湯沢スキー場
当協会(上村信男、末房亮)

事 業 : フィリピン訪問事業については、昨年度に続き2回目の開催となる。
引き続き現地旅行エージェントの訪問や関係者との懇談等を行ない、関係強化を図った。

7、案内所インバウンド受入体制強化

継続事業として湯沢町を含む雪国観光圏域内(新潟県魚沼市・南魚沼市・湯沢町・十日町市・津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村)の観光情報発信及び、観光案内拠点として広域観光情報センター(観光案内所)の機能強化を図った。

また、NTTドコモによるスマイルコール(タブレットを通じたオペレーターによる通訳対応設備)、インドネシア語によるフェイスブックでの情報発信などを継続的に実施した。

8、各国誘致事業

○招聘事業

1) 香港メディア招聘事業

実施日 : 7月8日

主 催 : 新潟県

内 容 : 町内視察(フィッシングパーク、ホテルの里など)

2) シンガポール観光関係者招聘事業

実施日 : 8月27日

主 催 : 新潟・群馬・埼玉県連携

内 容 : 町内視察(ぼんしゅ館他)

3) ロシアエージェント観光商談会

実施日 : 9月8日

主 催 : 雪国観光圏

内 容 : 湯沢グランドホテルにて観光商談会

4) ロシアエージェント招聘事業

実施日 : 12月8日

主 催 : 雪国観光圏

内 容 : 町内視察

9、意見交換会・交流会 等

インバウンドサポーターとの意見交換会（湯沢町議会議員、観光協会事務局、二階堂バサナ氏など）、雑誌出稿（オーストラリア/D' DAY JAPAN）、新潟県益田副知事とのインバウンド意見交換会、新潟PAK 来県に伴う交流会（新潟県国際観光テーマ地区推進協議会）、観光協会案内所ネットワーク（TIC 東京）連携事業などを実施した。

10、コンシェルジュ連携事業

感謝の集いの開催に併せて首都圏でのセールスを実施した。東京駅観光案内所やシティホテルのコンシェルジュデスク訪問、メディア（中央紙）セールスなどを行なった。

11、各種研修会等事業

インバウンド観光客の増加に伴い町内の宿泊施設、観光施設・土産店、飲食施設での英語対応等々が必要になってきている。

そのことから、継続事業として観光協会員向けの英語講座をカルチャーセンターにおいて実施した。

A、初級クラス（全13回）

B、中級クラス（全13回）

12、SNS 対策事業

これまで行なってきたインドネシア語によるフェイスブックでの情報発信を継続するとともに、ツイッター及びフェイスブックでの英語での情報発信を開始した。

13、パンフレット整備

英語・繁体字・簡体字・韓国語・タイ語・インドネシア語パンフレットの増刷。

連携事業

1、雪国観光圏連携

雪国観光圏が実施したイベント事業への協力を行なった。また、朝日新聞の雪国観光圏企画広告への出稿を行なった。

シンガポールでのキャンペーンに協賛した。

2、友好市町連携事業

①湯沢市連携事業

「湯沢」つながりである秋田県湯沢市との連携事業を行なった。

○湯沢市で開催された「七夕絵どうろうまつり」（8月5日～7日）へ湯沢町観光協会が出展。

○湯沢町での開催となる「こらっしやい湯沢・収穫祭」（10月15日）へ湯沢市観光物産協会が出展。

○「東京カルチャーカルチャー」（東京都渋谷区）において湯沢町観光協会・湯沢市観光物産協会の両者で食と観光イベント開催（12月7日）。

3、ネクスコ・アライアンス事業（近隣5市町連携事業）

ネクスコ東日本（東日本高速道路株式会社）湯沢管理事務所が中心となって、湯沢町・魚沼市・南魚沼市・十日町市・津南町の5市町の観光協会による共同イベントを開催。

実施日：12月1日

場所：「東京カルチャーカルチャー」（東京都渋谷区）

内容：地元の食材等を使った料理の提供及び観光PRを行なう。

4、5協会アライアンス事業

上越新幹線の沿線観光地である湯沢町（湯沢町観光協会）・新潟市（新潟市観光コンベンション協会）・佐渡市（佐渡観光協会）・みなかみ町（みなかみ町観光協会）・高崎市（高崎観光協会）の5市町観光協会からなるアライアンスによる連携事業を実施。

①台湾訪問キャンペーン

現地旅行会社・エージェンツへのセールスを実施。

実施日：6月18日～6月21日

参加者：新潟市観光コンベンション協会・佐渡観光協会・当協会

②香港訪問キャンペーン

現地旅行会社・エージェンツへのセールスを実施。

実施日：6月5日～6月8日

参加者：新潟市観光コンベンション協会・佐渡観光協会・みなかみ町観光協会・当協会

③アメリカ訪問キャンペーン

「上越新幹線沿線食文化物語紹介事業」としてアメリカ訪問キャンペーンを実施（現地訪問にあたっては当協会は同行せず）。

④台湾・香港プロガー招聘事業

実施日：10月25日 町内視察（ぼんしゅ館・ドラゴンドラ・高半など）

⑤アメリカ旅行関係者招聘事業

実施日：10月27日 町内視察

5、近隣市町村・団体連携事業

①十日町市連携事業

十日町との連携は特に強化中である。タイ訪問や中国広州旅行博覧会での共同ブース出展や台湾メディア招へいなどを実施し、次年度の大地の芸術祭客の誘致等を推進した。

※訪問事業としては、中国訪問及びタイ訪問を連携して実施した。

○タイ AGT 招聘事業

実施日：1月14～17日 町内視察（雪国館他）

○台湾メディア（プロガー、AGT、雑誌社）招聘事業

実施日：3月2～4日

町内視察（いちご村、体験工房、一本杉スキー場、ガーラ湯沢スキー場他）

②その他連携事業

一般財団法人湯沢町総合管理公社の「桜ウォーク&サイクリングイベント」「桜プロジェクト」、中里観光協会の「ホテルの森環境整備事業」、岩原観光協会の「飯土登山祭」、一般財団法人十日町地域地場産業振興センターが中心となって行なっている「つるしびなスタンプラリー」などの連携事業を行なった。

③ミズベリング事業

国土交通省湯沢砂防事務所等と協力したなかで7月7日にミズベリング事業を実施した。

6、新潟県有力観光案内所連携

新潟県が中心となり、当町・佐渡・新潟などの県内有力観光案内所がIC機器を使った情報共有と発信を相互で連携するほか、東京駅八重洲口にある外国人向け観光案内所「TIC TOKYO」での案内業務（委託）を行う。

7、エリア連携

湯沢町観光振興計画でもうたわれている地域ならではの魅力を創り上げていくため、また持続可能な地域づくりのため、湯沢・神立地区観光協議会、湯沢つちたる観光協議会、苗場かぐら観光協議会の各エリア協議会および湯沢町スキー場振興協議会に対して補助金を出した。

検討委員会

1、職員給与制度改訂を提言

6月の通常総会で理事会決済を承認。8月の理事会で承認後4月に遡って実施。

2、協会アンケート

協会員及び理事向けアンケートを実施。

その他事業

1、宿泊統計調査について

目的：観光戦略策定をする上での基本データとして、日本人と外国人に分けた宿泊人数調査を実施した。（新潟経済リサーチセンターに委託）
実施期間：半期別の調査。

2、フジロックフェスティバル協賛事業

1）会場整備

会場内の一部道路の補修整備事業を行った。

雨天時には悪路となって不評だったが改善され、お客様や主催者から歓迎された。

2）視察

国際理解や国際的な視野を広めるために、協会員が自主的に参加する英国グラストンペリー・フェスティバル（2017年6月21日～6月25日開催）の視察研修にかかる経費について、予算の範囲内で補助金を交付した。

参加者：苗場観光協会2名、越後湯沢温泉観光協会2名

3）整備事業

越後湯沢駅の混雑緩和及び東口の駐車場移動等に伴う安全対策のため、警備員の配置を行った。また、南魚沼シルバー人材センターに依頼し、越後湯沢駅東口トイレの臨時清掃を実施した。看板設置関係については、湯沢インター前、奈良山歩道橋等への案内看板を設置した。

4）フジロックの森事業（割り箸・ペーパー）

お客様から大好評を頂いているフジロックの森割り箸の販売やペーパー利用促進を図った。

4、関西・中部・九州地区旅行代理店教育旅行担当者（日本旅行）招聘事業

目 的： 当町のスキー修学旅行マーケットの中心である同地区教育旅行担当者を招へいし、関係施設視察・意見交換会などを実施し、さらなる誘致を目指す。

開催日： 3月1日～2日

参加者： 日本旅行教育旅行担当者約10名

5、駅装飾

12月27日から冬季イベントや冬花火を中心に装飾。

6、「ありがとう湯沢・感謝の集い」開催

開催日： 12月13日（水）

会 場： グランドプリンスホテル新高輪 国際館バミール「瑞光の間」

内 容： 顧客・旅行＆メディア関係者を招待し、日頃の御礼を申し上げると共に、今後の支援をお願いする。

参加者： 180名

7、トレッキングルート整備事業

飯士山トレッキングルートの整備及び飯士山を生かしたイベント実施に当たっての事業費の一部を支援した。

8、既存事業

総合パンフレットの制作など、毎年継続的に行なっている事業について、引き続き事業を展開。シーズン別の企画事業等によらない通年型の事業として、エフエム雪国による月1回のラジオ出演、お客様へのパンフレット送付、観光情報提供のためのホームページ整備等を継続して行なった。

また、東京及び大阪で開催されるうまさぎっしり新潟県観光商談会（主催：公益社団法人新潟県観光協会）や、新潟県国際観光テーマ地区推進協議会、インバウンド二次交通推進協議会などへの参加や地方創生などの各種セミナーへも積極的に参加をした。加えて、今年度は新潟県主催による関西教育旅行セールスへの参加や、2019年に開催される新潟デスティネーションキャンペーンの説明会等があった。

なお、視察等の受入としては国内エージェントの視察受入とそれに伴う交流会の開催などを行なった。

【主な制作パンフレット】

- | | |
|------------------|-----------|
| ・総合パンフレット（春・夏・秋） | 株新潟博報堂 |
| ・総合パンフレット（冬） | 株芸文社 |
| ・登山＆トレッキングパンフレット | 三条印刷株 |
| ・大源太キャニオンパンフレット | 三条印刷株 |
| ・インバウンドパンフレット | 三条印刷株 |
| ・駅から観タクパンフレット | 株JR 東日本企画 |

一般社団法人湯沢町観光協会平成29年度決算書

(正味財産増減計算書)

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

経常収益

(単位:円)

科 目	H29年度 当初予算額	H29年度 決算額	予算比	備 考
受取会費	10,569,650	10,557,350	△ 12,300	
正会員会費収入	10,069,650	10,057,350	△ 12,300	
賛助会員会費収入	500,000	500,000	0	
事業収益	20,300,000	20,481,027	181,027	
観光協会事業	5,300,000	4,991,112	△ 308,888	
旅行業・物販・案内所	3,900,000	3,591,112	△ 308,888	【旅行業】394,452円 【広告掲載】790,000円 【広域観光情報センター】2,282,982円 【物品販売】163,678円
受託事業	1,400,000	1,400,000	0	【えちご魚沼観光開発協議会】 広域案内所管理運営事業 1,400,000円
雪国館管理運営事業	15,000,000	15,489,915	489,915	
指定管理料	9,000,000	9,000,000	0	
利用料・物販	6,000,000	6,489,915	489,915	【入館料収入】5,208,250円 【物販・自主事業収入】1,281,665円
受取補助金等	83,280,000	85,047,145	1,767,145	
湯沢町補助金	83,000,000	83,000,000	0	運営費及び宣伝費
地方公共団体他補助金	280,000	2,047,145	1,767,145	【新潟県】789,000円(vi-fri整備) 【国交省】700,000円(HDリニューアル) 【観光課】245,000円(施設運轉) 【湯沢町】313,145円(減価償却)
受取負担金	6,500,000	3,035,080	△ 3,464,920	
受取負担金	6,500,000	3,035,080	△ 3,464,920	【総会等会費負担金】568,000円 【宣伝事業】733,516円 【インバウンド事業】1,014,564円 【雪国館事業】490,000円 【その他】209,000円
雑収益	50,350	15,203	△ 35,147	
雑収益	50,350	15,203	△ 35,147	
経常収益計	120,700,000	119,135,805	△ 1,564,195	

経常費用

科 目	H29年度 当初予算額	H29年度 決算額	予算比	備 考
役員報酬	5,000,000	5,000,000	0	会長、副会長、委員長、専務理事報酬
給料手当	26,750,000	25,580,037	△ 1,169,963	正職員及び臨時職員 給与・賞与・手当
福利厚生費	6,650,000	6,228,553	△ 421,447	法定福利厚生費(社会保険料、労働保険料、 雇用保険料等) 法定外福利厚生費(健康診断費用等)
仕入高	2,300,000	2,367,568	67,568	【広域観光情報センター】宅急便取り扱い料 金、各種チケット等販売 【雪国館】物品販売事業商品仕入れ
旅費交通費	7,450,000	5,590,570	△ 1,859,430	会議、協議会等出席旅費 国内誘客宣伝活動旅費 インバウンド訪問事業等旅費
通信運搬費	2,200,000	2,568,749	368,749	事務局・雪国館・案内所における電話・FAX 料金・郵便・宅急便、旅行機・イベント等 パンフレット送付(国内及び海外)
減価償却費	230,000	539,858	309,858	レレヒさん着ぐるみ(226,713円) ドローン、デジタルカメラ及びパソコン (H28町補助事業/313,145円)

消耗品・消耗什器備品費	1,350,000	1,153,502	△ 196,498	事務局・雪国館・案内所における事務用品、宣伝事業時の消耗品、雪国館什器備品関係(蛍光灯、スポットライトなど)、プリンターナ
修繕費	400,000	241,196	△ 158,804	雪国館修繕費(給湯器、エアコン、ブラインド、電気ヒーター)、町観車検代等
燃料費	190,000	226,695	36,695	灯油、ガソリン代
光熱水料費	1,880,000	1,900,414	20,414	【事務局】電気代、水道代、ガス代 【雪国館】電気代、水道代
賃借料	4,020,000	3,814,969	△ 205,031	第一分館使用料、案内所賃借料、複合機リース料・カウンター料、携帯充電器・インターネット機器(案内所)、旅行機ブース借上料、冬季誘客イベントブース借上料
保険料	170,000	251,422	81,422	事務局火災保険、雪国館賠償責任保険、ドローン保険料
諸謝金	720,000	679,690	△ 40,310	会員向け英語講座講師謝金 雪国館事業(ツアー、講演会、体験イベント)講師・ガイド報酬 総会講演会講師報酬
支払負担金	9,200,000	11,125,257	1,925,257	新潟県観光協会・各種協議会会費、旅行業協会負担金、新潟県スキー観光振興協議会負担金、催事負担金(花まつり、収穫祭、まつり)、フジロックの森、事業協賛(ホテル、里、飯土登山路、桜プロジェクト、モンペルクラブ、湯沢市連携イベント、フジロック海外視察支援)、エリア協議会、文化施設連携、Wi-Fi整備事業
支払寄付金	20,000	5,000	△ 15,000	赤い羽根募金
広報宣伝費	44,740,000	43,414,875	△ 1,325,125	シーズ事業(春夏秋冬企画事業・宣伝事業)、連携事業(秋田県湯沢市・十日町市など)、インバウンド誘致事業(台湾、中国、タイ、インドネシア、フィリピンなど訪問及び招聘事業、受入整備事業)、湯沢冬火花火、感謝の集い、調査事業、各種媒体への出稿、パンフレット制作・増刷など
委託費	2,400,000	2,756,343	356,343	雪国館定期メンテナンス事業(電気設備、昇降機、機械設備、消防設備、冬季駐車場除雪業務)、事務局経理業務(会計事務所・財務システム)、各種登記等業務、労務士
租税公課	830,000	585,585	△ 244,415	消費税、収入印紙、自動車税
会議・交際費	3,500,000	4,550,969	1,050,969	総会等会場費、ミズベリング会場代、各種団体・協議会等の懇親会費・お手持ち、催事お祝い酒、インバウンド訪問事業及び招聘事業時の観光説明会会場費・交流会費・懇親会費・お土産、講師等謝礼品(着菓等)
雑費	700,000	423,155	△ 276,845	振込手数料・後納手数料、クリーニング代(ハッピ・ウェア[誘導員等]等)、新聞代(事務局・雪国館)
経常費用計	120,700,000	119,004,407	△ 1,695,593	

経常収益計	120,700,000	119,135,805	△ 1,564,195	
経常費用計	120,700,000	119,004,407	△ 1,695,593	
当期経常増減額	0	131,398		

貸借対照表（平成30年3月31日）

（資産の部）		（負債の部）	
流動資産		未払金・未払費用	15,519,427
現金預金	12,879,009	預り金	55,330
売掛金	20,351		
未収金・未収会費	6,214,596		
棚卸資産	79,876	負債合計	15,574,757
立替金	300,000		
固定資産		（正味財産の部）	
車両運搬具	1	指定正味財産	
什器備品	747,053	地方公共団体補助金	406,982
保証金	700,000		
出資金	100,000	一般正味財産	5,114,437
長期前払費用	43,350		
その他固定資産	11,940	正味財産合計	5,521,419
資産合計	21,096,176	負債及び正味財産合計	21,096,176

注 記

1、会計方針

（1）棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価方法は、最終仕入原価法による原価法によっている。

（2）固定資産の減価償却の方法

減価償却資産について、定率法による減価償却を実施している。

（3）リース取引の処理方法

ファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引による会計処理によっている。

2、固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
車両運搬具	841,224	841,223	1
什器備品	1,588,480	841,427	747,053

3、補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

（単位：円）

名 称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	区 分
誘客促進・運営	湯沢町	0	83,000,000	83,000,000	0	一般正味財産
誘客促進事業	国土交通省	0	700,000	700,000	0	一般正味財産
誘客促進事業	新潟県	0	789,000	789,000	0	一般正味財産
誘客促進事業	雪国観光圏	0	245,000	245,000	0	一般正味財産
合計		0	84,734,000	84,734,000	0	

4、指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	313,145
減価償却費計上による振替額	313,145
小計	313,145
合計	313,145

固 定 資 産 の 明 細

区 分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
固定資産	車両運搬具	1	0	0	1
	什器備品	1,286,911	0	539,858	747,053
	保証金	700,000	0	0	700,000
	出資金	100,000	0	0	100,000
	長期前払費用	173,334	0	129,984	43,350
	その他固定資産	11,940	0	0	11,940
	計	2,272,186	0	669,842	1,602,344

※什器備品…レールとさん着ぐるみ、ドローン、デジタルカメラ、パソコン

監 査 報 告

一般社団法人湯沢町観光協会第7期（平成29年度）事業状況及び会計決算監査を下記により実施致しましたので報告いたします。

記

1. 監査年月日 平成30年 5 月23日（水）

2. 監査報告

- 1) 事業報告書を確認し、事業内容は適切であると認めます。
- 2) 収支計算書等と備え付けの帳簿、証憑書類、預金通帳を照合したところ正確に処理されていました。

以上

平成30年 5 月23日

一般社団法人

監事 越後湯沢温泉観光協会 理事

小幡 忠義 

監事 飯土高原・原観光協会 会長

田代 美知 

第二号議案

平成30年度事業計画（概要・案）

平成30年度は、国内外に波乱要因は多いものの、経済は穏やかな拡大を続けるものと予想されています。しかしながら、全体としては「実感なき景気回復」と言われ、地方や観光業界にどれほどの好影響を及ぼすものなのか、不透明でありますし、少子高齢化による市場の縮小と、益々多様化が進み成熟化・高度化する市場ニーズへの対応を含めて、依然として予断を許さない厳しい状況が継続するものと思われます。

一方、隣接する十日町市での「大地の芸術祭」、新潟デスティネーションキャンペーン・ブレDC、フジロックフェスティバル湯沢苗場開催20周年の年でもあります。又、アルペンスキーワールドカップ2020開催の可能性、アジアで相次ぎ開催される冬・夏季オリンピック（2018平昌・2020東京・2022北京）などは明るい話題といえますし、大いなる期待が持てます。

その様な年、その対策として、事業の精査と見直しに加えて、各委員会議論をもとに、中期的ビジョンに立った事業展開を考察して参りたいと考えております。

フジロックフェスティバルは、過去19回の湯沢苗場開催で210万人以上の入場者があり、町に対して、経済効果とブランド力向上に多大な功績を齎しております。20回開催に向けて「協働」の理念に立った具体的な行動が望まれるものと考え、記念事業を実施します。

又、当町観光の最大市場である首都圏対応策としては、前年の反省を踏まえ、冬季観光の広報・宣伝の強化に努めたいと思います。併せて、グリーンシーズンサービスの広報はメディアとのタイアップ等で広範な情報発信を実施致します。

先般リクルートじゃらんが発表した報告によれば、2022年には外国人延べ宿泊数が日本人を上回るとの事です。その予想からも、インバウンド対策は極めて重要だと認識して、本年度も一層活発・積極的な事業展開を図りたいと考えます。

昨年来の課題であるコンプライアンス遵守や職場環境の整備、人材確保と育成、労働生産性向上に向けては、本年度以降も継続的にその改善に取り組んで参ります。

又、今年施行される住宅宿泊事業法（民泊新法）、労働力不足と外国人雇用問題、DMOやMICEへの取り組み等も同様に重要で、これらについては、市場動向を鑑みながら、関連団体との連携を密接にして対応したいと考えております。

いずれにしても、協会員一体となった対応が何よりも重要だと認識し、下記重点事業を中心にその考えに立った活動を推進したいと考えております。

- 重点事業：
- 1、首都圏並びにインバウンド対策事業
 - 2、各委員会活性化事業
 - 3、調査と情報発信強化事業

平成30年度 広報・宣伝事業計画

事業名	情報発信整備事業	予算額	2,500千円
実施内容	① コンテンツ制作事業 新潟県南魚沼地域振興局及び南魚沼市と連携をしたなかでプロモーションムービーの作成を行う。現行の多言語プロモーションムービーは4年前の制作であり、市場ニーズからい離れた点に対しての指摘がある。当地域が持つ優位性を前面に出した内容に一新したい。なお、言語は、日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・タイ語・インドネシア語対応とする。 ② HP管理運営事業 市場ニーズに即したHPの改良を図る。		
事業名	グリーン季事業	予算額	7,350千円
実施内容	① 春季事業 企画事業：フォトコンテスト 春季事業として企画するが、開催期間は春から秋までのグリーンシーズンを通じて実施する（企画内容は現時点での予定）。 宣伝事業： 「残雪と桜」をキーワードに5月に開催される「越後湯沢ユニバーサルウオーク」を絡めた内容での宣伝を行う（詳細な媒体等については企画宣伝委員会で今後検討のうえ確定することとする）。 ② 夏季事業 企画事業：レレヒさんを探せ 過去数年に渡って実施している「レレヒさんを探せ」について継続実施する（企画内容は現時点での予定）。 宣伝事業： 夏休み期間が軸となることから、同期間のメインターゲットである“ファミリー層”に対する訴求効果の高い宣伝活動を行う（詳細な媒体等については企画宣伝委員会で今後検討のうえ確定することとする）。 ③ 秋季事業 企画事業：三大ロープウェイ企画 年々その知名度及び人気上昇している「三大ロープウェイ（ドラゴンドラ・田代ロープウェイ・湯沢高原ロープウェイ）」をメインにのせた企画事業を実施する（昨年度はスクラッチ企画を実施／今年度の企画内容は今後、企画宣伝委員会で検討のうえ決定する）。 宣伝事業： 三大ロープウェイは今や湯沢町における強力な観光コンテンツとなっていることから、三大ロープウェイを軸とした宣伝内容とする。なお、秋季のメインターゲットはミドルシニア層となるが、昨年度から若年層への訴求拡大を図っていることから、今年度も継続して若年層への訴求効果の高い媒体を選んでいきたい（詳細な媒体等については企画宣伝委員会で今後検討のうえ確定することとする）。 ④ サマースキー振興策 かぐらスキー場及びガウラ湯沢スキー場で行われるサマースキーの振興を図るべく宣伝活動を行う。日本有数のウィンターリゾートとして「夏季でもスキーやスノーボードが出来る」ということを夏季における湯沢町の強力な観光コンテンツとして積極的にアピールし、夏季における更なる誘客を図る。		

事業名	連携事業	予算額	5,750千円
実施内容	① 雪国観光圏連携事業 雪国観光圏との連携事業を行う。「食」や「トレイル」事業等で共催したい。 ② 農商（農泊）連携事業 新規事業として、農林水産省が推進する「農泊」事業にエントリーする。体験工房「大源太」やNPO法人アースロア、並びに民宿と連携した内容で開始したい。グリーン季・ファミリー客を対象に、農業や工作体験、ワークショップなどを組み込んだ事業を計画する。 ③ 友好市町連携事業 友好関係にある秋田県湯沢市とは、3年前から本格的な共同事業を展開し大きな反響を得ている。とくに昨年度は、相互のイベント出展に加え「東京カルチャーカルチャー」で食と観光PRを実施し、好評を博した。今年度も「絵どうろうまつり」・「こらっしやい湯沢・収穫祭」の相互出展などの事業を展開したい。 ④ 5協会アライアンス事業 新潟観光コンベンション協会、佐渡観光協会、湯沢町観光協会、みなかみ町観光協会、高崎観光協会の5協会によるアライアンスを継続実施する。昨年度は台湾・香港・アメリカキャンペーン等で充実した事業展開となった。今年度は、日系人や親日客が多く可能性の高いハワイを中心にアメリカを強化する事業計画となっている。 ⑤ ネクスコ・アライアンス事業 ネクスコ東日本・湯沢管理事務所が中心となり、魚沼市観光協会、南魚沼市観光協会、十日町市観光協会、津南町観光協会、湯沢町観光協会の魚沼エリア5協会の連携事業を継続実施する。 ⑥ その他連携事業 町内で行われている「中里ホテルの里」や「桜プロジェクト」、「桜ウォーク」、「飯土登山祭」などの事業を支援し、連携事業として実施する。また、一昨年よりはじめた「モンベルフレンドエリア」事業を継続する。		

事業名	調査事業	予算額	1,200千円
実施内容	① 市場および他観光協会動向調査事業 検討委員会で議論する市場および他観光協会の調査を実施する。 ② 湯沢町観光客動向調査事業 新潟社会経済リサーチセンターとの共同調査を実施する。		

事業名	インバウンド誘致事業	予算額	20,180千円
	① 冬季誘客事業 平成21年度から本格的スタートしたインバウンド誘致計画は昨年度から第3期に入り、アジア圏を中心に多様な活動を展開している。平成29年度の宿泊客数は約9万1千人、スキー場利用客数は約14万7千人で増加傾向が続いている。 訪問事業としては台湾、フィリピンなどを計画し、招聘事業ではタイ、インドネシアなどを計画している（今後、インバウンド誘致委員会において実際に展開する対象国等の検討を進める）。また、昨年度より本格的に開始した十日町市との連携事業においては、訪問事業及び招聘事業での連携を進めるべく打ち合わせを重ねている。そのほか、必要に応じ広告出稿などを実施する。 ② 受入整備・案内所機能強化事業		

実施内容	湯沢町のみならず、雪国観光圏エリアや新潟県の玄関口としても機能している越後湯沢駅構内の「広域観光情報センター」において、英語堪能な職員を配置するなどし、インバウンド観光客への対応を強化するとともに、サービス向上等を含めた案内所の機能強化を図る。 また、地区観光協会等が実施するパンフレットの翻訳・多言語化等について支援し、町内全域対象としたソフト事業を展開する。 インバウンド観光客は今後もますます増加すると考えられるため、受入環境の整備等を通じてお客様の満足度向上を図り、リピーターの増加等につなげていきたい。 ③ 都内施設等連携事業 都内有力ホテルのコンシェルジュや東京駅などの観光案内所等を訪問し、お客様への湯沢町の紹介・送客を要請する。現時点ではウインターシーズン前のマスコミキャラバン等との同時展開を予定している。 ④ グリーンシーズン強化事業 ウインターシーズンが中心となっている現状からシーズンを通じたインバウンド観光客の誘客を図るため、「残雪と桜」、「三大ロブウェイ」などのグリーンシーズンの観光コンテンツの宣伝を行う。 ⑤ 研修会・能力開発事業 協会員向けの英語講座等を実施する。 ⑥ SNS対策事業 英語での情報発信（ツイッター）や、インドネシア語での情報発信（フェイスブック）など、ソーシャルメディアを活用した情報発信を行う。ネット環境が整った現在においてはソーシャルメディア等を通じた情報展開は、より力を入れて事業展開すべき分野と考える。
------	--

事業名	スキー観光活性化事業	予算額	5,250千円
実施内容	① 冬季企画事業 町内12スキー場や湯沢冬花火などと連携・連動した事業を実施する（詳細な企画内容については今後、スキー観光活性化委員会において検討のうえ確定することとする） ② 冬季宣伝事業 越後湯沢駅構内における冬季特別装飾、首都圏での冬季誘客イベントへの出展、観光情報ニュースの発行（抜き刷り）などの事業展開を図る。インバウンド誘致事業等との連携したなかで事業展開を図り、ウインターシーズンのより一層の誘客につなげたい。		

事業名	固定性事業	予算額	18,942千円
実施内容	① 負担金 県スキー観光産業振興協議会及びインバウンド二次交通推進協議会への支払。 ② フジロックフェスティバル諸費 越後湯沢駅東口の駐車場警備や代替駐車場の設定、トイレ清掃（越後湯沢駅東口）、国道17号線・関越道湯沢IC出口・越後湯沢駅における歓迎看板設置などの事業を実施する。 ③ 継続宣伝事業 総合パンフレット（グリーンシーズン・ウインターシーズン）や宿泊ガイドの作成、トレッキングガイドなどの各種パンフレットの増刷を行う。また、駅から観光タビやエフエム雪国での月1回のコーナー提供など過去に行ってきた事業について		

	も継続的に実施する。観光宣伝実施に当たっての打ち合わせや会議等出張旅費、エージェンツ等との交流会費用についても本事業として展開する。 ④ 感謝の集い 感謝の集いを開催する（１２月初旬・東京都内にて）。 ⑤ エリア共催事業 湯沢町観光振興計画に書かれたエリアの特性を生かした観光宣伝事業展開のため、苗場かぐら、湯沢つちたる、湯沢・神立地区の３エリアおよびスキー場振興協議会の実施する事業について支援する。 ⑥ トレッキングルート他整備事業 「秋葉山登山道整備」をはじめとしたルートの整備を行う。
--	--

事業名	冬花火拡充事業	予算額	4,000千円
実施内容	① 花火打上事業 週末を中心にシーズン中１２回実施する冬花火は、今や湯沢の冬の風物詩として国内はもとより海外からも高い評価を得ている。今年度は重点事業としてさらに強化して実施したい。 ② 冬花火企画・宣伝事業 「湯沢冬花火」については湯沢町スキー場振興協議会から尚一層の充実化が要望されており、回数の増加や内容の充実化を図りながら、新たな企画を造成して誘客効果の高いイベントとして実施する。		

事業名	フジロックフェスティバル共催事業	予算額	6,500千円
実施内容	① 出演者共催事業 今や世界からも極めて高い評価を得、湯沢町の知名度・ブランド力向上に貢献するとともに、著しい経済効果を生んでいる今フェスは、新年度に苗場開催２０回目を迎える。 前年度は整備部門でそのスタートを切ったが、今年度は主催社である株式会社スマッシュとの協働の理念に立った事業を展開する必要性がある。主催者の意向に沿った出演者（鼓童）他で共催したい。 特別出演の「鼓童」は演奏者１５名・スタッフ８名を予定し、その出演料と宿泊費並びに移動交通費等で５００万円を見込んでいる。 ② 特別共催アトラクション事業 本年度のみ開催される特別アトラクションは斬新なサーカスであるが、３，５００万円の費用のうち、２，５００万円は主催者である株式会社スマッシュが負担するが、残り１，０００万円は湯沢町関係機関から協力を仰ぐ計画である。 そのうち、１５０万円を負担金として計上する。		

事業名	事務局運営事業	予算額	
実施内容	① 事務局運営事業	20,000千円	
	一般社団法人湯沢町観光協会の運営を行う。 なお、平成30年度の職員体制は以下のとおりとする。		
	専務理事	上村 信男	事務局（全体統括）
	事務局長代理	大口 尚親	事務局（運営部門担当）
	事務局長代理	貝瀬 健太	事務局・資料館（管理部門担当）※資料館長兼務
	リーダー	諸田 祐介	事務局
	副館長	高橋 和美	資料館
	リーダー	林 絵梨	案内所
	職員	南雲 智代	事務局
	臨時職員	岩瀬 千草	資料館・案内所
	臨時職員	蕪木 友美	案内所
	臨時職員	中村里紗子	案内所
	臨時職員	南雲 武子	資料館
地域おこし協力隊	末房 亮	事務局	

検討委員会【平成30年度検討事項について】

10年後を見据えた組織強化について

1、5か

々の減少や経営者の高齢化していくなかで、世代の変化とともに町観と地区関係・繋がりはどうあるべきかを考える。また、湯沢町観光振興計画にも「町本の観光協会の組織の穏やかな統一と湯沢町観光協会の組織強化を目指しながら」とあり、町観のみならず地区観も含めた町の観光組織全体の強化について検討していく。

2、全町共通リフト券の提案について

数年来、何度か話題として挙がっていた「全町共通リフト券」の作成について検討を進めたい。本件は、町内索道事業者の皆さまのご理解をいただいてこそ検討できる案件と考えるが、実現するための諸課題を湯沢町スキー場振興協議会及び索道事業者の皆さまとともに検討・研究したい。たとえば、最初はインバウンドのロングステイ客を対象とした「インバウンド向け5日通し券」のような共通リフト券の展開からはじめ、諸課題をクリアしながら最終的に全てのお客様を対象にした「共通リフト券」の展開に繋げていくなどの方策などがあるかと考えている。共通リフト券の販売に当たっての事務手続きを町観が行なうことで、リフト券の手数料収入が町観の自主財源のひとつにもなり得ると考える。

3、委員会のつながり強化に関する取り組みについて

町観には企画宣伝、スキー観光活性化、インバウンド誘致の3委員会があり、それぞれが担当分野の宣伝事業をおこなっているが、アンケート結果には各種宣伝事業に関する意見や提案なども挙がっており、それらを検討委員会で検証したうえ、各委員会に連絡・報告し、各委員会で事業への反映などをご検討いただけたらと考える。そのうえで、各委員会の反映状況などを会員にフィードバックするなどし、会員と各委員会の橋渡しの役割を行い、会員の町観事業への理解度を深めていけたらと考える。

4、事務局体制のあり方・整備について

アンケートにあった「町観と地区観がもっと密着した関係になる必要がある」や「事業の整理や業務のやり方等を見直して町観事務局が地区に入っていく機会を増やしてもらえたらと思う」といった意見を受け、町観事務局が「地区の会議や総会に顔を出して話を聞いてくる」というところからはじめるなど、町観と地区観の共通認識の醸造につなげるための事項を検討したい。また、専務理事及び事務局長職を含めた事務局体制について整備するとともに、それらを明文化するなどの検討を行ないたい。湯沢町が今後も「持続可能な観光地」であるために、「5から10年後を見据えた組織強化」と併せて「事務局体制のあり方」についても検討する。

5、主催・後援事業等の見直しについて

平成30年度湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」事業計画

1、収入について（予算額）

当初予算額	平成29年度	平成30年度	比 較
指定管理料	9,000,000	9,500,000	+500,000
入館料収入	5,200,000	5,500,000	+300,000
自主・物販事業	800,000	1,200,000	+400,000
合計	15,000,000	16,200,000	+1,200,000

2、事業について

(1) 特別展の開催

- 春季特別展 テーマ／2018「湯沢桜名所めぐり」
- 夏季特別展 テーマ（予定）／三国街道と三国戦争
- 夏休み特別展 テーマ（予定）／夏の湯沢と昔の子ども
- 秋季特別展 テーマ（予定）／川端康成ノーベル賞 受賞50年目
- 冬季特別展 テーマ（予定）／豪雪のくらし

(2) 企画事業の実施

- 夏休み企画 「子ども無料入館対応」などの夏休み企画を継続実施する。
- GW企画 夏休みの企画に追加して、同企画をGW期間も実施する。
- ワラ細工関連の体験や実演、対談イベント
雪国の文化を感じられるような企画を軸として実施する。
- 石川雲蝶講演会 中島すい子さんによる講演を今年度も継続して実施する。
- 石仏ツアー 昨年度好評だった高橋正明さんガイドによるツアーを実施する。
- 町民による講演会や対談
ワラ細工の小林守雄さん、町の歴史を詳しく知っている茂野貞一さん、池田誠司さんなど町民の視点で語ってもらう機会を設ける。

(3) 川上四郎作品の展示

シニア層の人気の高い分野につき、川上四郎に関する展示を今年度も継続実施。

(4) 物品販売

当地の文化風俗にかかわりが深いものを中心に仕入れ販売を行なう。商品のラインナップを増加するなどし、収益の更なる増加を目指す。バーコード管理を導入。

(5) サービスの向上

障がい者の入館案内など

(6) 広域連携事業

湯沢町及び南魚沼市の12の文化施設の連携母体である「南魚沼・湯沢ミュージアム連絡協議会」での事業を軸にする。12館の相互優待制度である「雪国アート回廊」をメインに各館の入館者増加に繋げる。

一般社団法人湯沢町観光協会平成30年度予算(案)

(正味財産増減計算書)

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

経常収益

(単位:円)

科 目	H29当初予算額	H30当初予算額	予算比	備 考
受取会費	10,569,650	10,526,350	△ 43,300	
正会員会費収入	10,069,650	10,026,350	△ 43,300	
賛助会員会費収入	500,000	500,000	0	
事業収益	20,300,000	24,100,000	3,800,000	
観光協会事業	5,300,000	7,900,000	2,600,000	
旅行業・物販・案内所	3,900,000	5,800,000	1,900,000	【旅行業】550,000円【広告事業】700,000円【物販事業】350,000円【広域案内所】4,200,000円
受託事業	1,400,000	2,100,000	700,000	【えちご魚沼観光開発協議会】(広域案内所管理運営事業)1,400,000円【湯沢町】(足湯かんたくり管理事業)700,000円
雪国館管理運営事業	15,000,000	16,200,000	1,200,000	
指定管理料	9,000,000	9,500,000	500,000	指定管理料の増額による(旧0~旧34)※900万円~950万円
利用料・物販	6,000,000	6,700,000	700,000	【入館料収入】5,500,000円【物販・自主事業収入】1,200,000円
受取補助金等	83,280,000	89,500,000	6,220,000	
湯沢町補助金	83,000,000	89,500,000	6,500,000	【ブロック共創事業】6,500,000円
地方公共団体他補助金	280,000	0	△ 280,000	
受取負担金	6,500,000	3,795,000	△ 2,705,000	
受取負担金	6,500,000	3,795,000	△ 2,705,000	【負担金等】総合・協議会等会費負担金、交流会等負担金、河川交歓会費(当年担当)【宣伝事業負担金】感謝の集い、インバウンド訪問・招徠、交流会費等【指定管理事業】雪国アート回廊
雑収益	50,350	108,650	58,300	
雑収益	50,350	108,650	58,300	
経常収益計	120,700,000	128,030,000	7,330,000	

経常費用

科 目	H29当初予算額	H30当初予算額	予算比	備 考
役員報酬	5,000,000	5,000,000	0	0 会長、副会長、委員長、専務理事報酬
給料手当	26,750,000	27,306,000	556,000	正職員及び臨時職員給与及び賞与時間外手当等(休職中職員復職)
福利厚生費	6,650,000	6,903,200	253,200	法定福利厚生費(社保、労保、健保等)、法定外福利厚生費(健康診断費用等)
仕入高	2,300,000	3,700,000	1,400,000	【広域観光情報センター】宅急便取扱、各種チケット等【雪国館】物品販売事業商品仕入れ
旅費交通費	7,450,000	5,470,000	△ 1,980,000	インバウンド現地訪問、国内イベント出張旅費、県観光協会各種会議等出張
通信運搬費	2,200,000	2,447,600	247,600	電話・FAX料金・郵便・宅急便、旅行機・イベント等パンフレットと送料(国内及び海外)
減価償却費	230,000	540,000	310,000	レンタル品有るのみ、ドローン、デジタルカメラ及びパソコン
消耗品・消耗什器備品費	1,350,000	1,150,000	△ 200,000	イベント消耗品、什器備品、事務用品
修繕費	400,000	280,000	△ 120,000	雪国館什器設備修繕
燃料費	190,000	190,000	0	0 灯油、ガソリン代
光熱水料費	1,880,000	1,884,000	4,000	事務用電気代、水道料、ガス代
借借料	4,020,000	3,619,200	△ 400,800	雪国館電気代、水道料
保険料	170,000	275,000	105,000	事務用火災保険料、雪国館賠償責任保険料
諸謝金	720,000	720,000	0	0 英語講座講師、体験イベント講師、定例管理業務他
支払負担金	9,200,000	9,960,000	760,000	0 エリア補助金、連携宣伝事業、県協会、協議会等会費、前年負担金、事業負担金
支払寄付金	20,000	20,000	0	0
広報宣伝費	44,740,000	49,180,000	4,440,000	0 企画事業、新聞等各種媒体への掲載など観光宣伝に伴う事業費
委託費	2,400,000	3,144,800	744,800	0 機械設備、電気設備等雪国館内外メンテナンス業務委託、事務用設備・会計業務、除雪業務委託
租税公課	830,000	755,000	△ 75,000	0 前償税、収入印紙、各種登記等費用
会議・交際費	3,500,000	5,002,000	1,502,000	0 会費、各種組合・協議会等の会費、おすもろし、交流会費・お土産等、※今年度は役員交際会費会費
雑費	700,000	483,200	△ 216,800	0 クリーニング代、新聞代、公告費用等
経常費用計	120,700,000	128,030,000	7,330,000	
経常収益計	120,700,000	128,030,000	7,330,000	
経常費用計	120,700,000	128,030,000	7,330,000	
当期経常増減額	0	0		

第三号議案

平成30年度 一般社団法人湯沢町観光協会 役員(案)

役 職	氏 名	所属団体役職等	区 分
代表理事(会長)	小林 庄 一	一般社団法人湯沢町観光協会会長	湯 沢 町 観 光 協 会
常務理事(副会長)	佐 藤 高 之	苗場観光協会会長 (兼)苗場かぐら観光協議会長	苗 場 か ぐ ら 観 光 協 議 会
常務理事(副会長)	岡 淳 朗	岩原観光協会会長	湯 沢 つ ち た る 観 光 協 議 会
常務理事(副会長)	富 井 松 一	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会会長 (兼)湯沢・神立地区観光協議会長	湯 沢 ・ 神 立 地 区 観 光 協 議 会
常務理事(副会長)	中 沢 隆	かぐらスキー場営業担当部長 (兼)湯沢町スキー場振興協議会長	湯 沢 町 ス キ ー 場 振 興 協 議 会
常務理事(副会長)	宮 坂 肇	株式会社プリンスホテル執行役員 新潟統括地支配人兼苗場地支配人	株 式 会 社 プ リ ン ス ホ テ ル
専 務 理 事	上 村 信 男	一般社団法人湯沢町観光協会 専務理事	湯 沢 町 観 光 協 会
理 事	小 沢 貞 春	田代・二居観光協会会長	苗 場 か ぐ ら 観 光 協 議 会 【 2 名 】
理 事	茂 木 三千夫	かぐら・みつまた観光協会会長	
理 事	富 沢 悦 夫	中里観光協会会長 (兼)湯沢つちたる観光協議会長	湯 沢 つ ち た る 観 光 協 議 会 【 3 名 】
理 事	高 橋 真 二	湯沢パーク観光協会会長	
理 事	長谷川 学	松川観光協会会長	
理 事	高 井 良 一	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会 専務理事	湯 沢 ・ 神 立 地 区 観 光 協 議 会 【 5 名 】
理 事	林 嘉 彦	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会 副会長	
理 事	井 口 晋 裕	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会 理事	
理 事	綿 貫 靖 夫	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会 理事	
理 事	南 雲 公 男	神立観光協会会長	
理 事	堀 恵 一	一本杉スキー場施設株式会社 代表取締役社長	湯 沢 町 ス キ ー 場 振 興 協 議 会 【 5 名 】
理 事	星 野 透	株式会社スマイルリゾート 湯沢中里スノーリゾート総支配人	
理 事	小 倉 克 弘	株式会社ガーラ湯沢 ガーラ湯沢スキー場取締役支配人	
理 事	竹 添 義 哉	株式会社ガーラ湯沢 ガーラ湯沢スキー場営業部長	
理 事	南 雲 廣 文	湯沢町スキー場振興協議会 事務局長	交 通 関 係
理 事	森 下 進	湯沢タクシー協会会長	
理 事	林 嘉 彦	企画宣伝委員長	※重複
理 事	夏 日 卓 弥	スキー観光活性化委員長	
理 事		インバウンド誘致委員長	
理 事	師 田 富士男	検討委員長	
理 事	南 雲 剛	湯沢町産業観光部長	湯 沢 町 産 業 観 光 部
監 事	小 幡 忠 義	一般社団法人越後湯沢温泉観光協会 理事	
監 事	田 代 美 知	飯士高原・原観光協会会長	

【総務委員会(常務理事会)】

区 分	氏 名	所属団体役職等	付 記
代表理事(会長)	小林 庄 一	一般社団法人湯沢町観光協会会長	
常務理事(副会長)	佐藤 高 之	苗場観光協会 (兼)苗場かぐら観光協議会長	
常務理事(副会長)	岡 淳 朗	岩原観光協会	
常務理事(副会長)	富井 松 一	(一社)越後湯沢温泉観光協会 (兼)湯沢・神立地区観光協議会長	
常務理事(副会長)	中 沢 稔	かぐらスキー場営業担当部長 (兼)湯沢町スキー場振興協議会長	
常務理事(副会長)	宮坂 肇	株式会社プリンスホテル執行役員 新潟統括総支配人兼苗場総支配人	
専 務 理 事	上 村 信 男	一般社団法人湯沢町観光協会専務理事	
企画宣伝委員長	林 嘉 彦		
スキー観光活性化委員長	夏 目 卓 弥		
インバウンド誘致委員長	五 からレ	苗場トリフ	
検 討 委 員 長	師 田 富士男		
湯沢町産業観光部長	南 雲 剛	湯沢町産業観光部	

【企画宣伝委員会】

区 分	氏 名	所属団体役職等	付 記
苗場かぐら観光協議会	師 田 輝 彦	苗場観光協会(副会長)	
	関 利 明	かぐら・みつまた観光協会(宣伝部長)	
湯沢つちたる観光協議会	田 代 雄 一	中里観光協会(理事)	
	高 野 雅 士	岩原観光協会(企画宣伝ウェブ委員長)	
湯沢・神立地区観光協議会	林 嘉 彦	(一社)越後湯沢温泉観光協会(副会長)	委員長
	小 泉 学	(一社)越後湯沢温泉観光協会	
湯沢町スキー場振興協議会	高 橋 秀 徳	株式会社スマイルリゾート 湯沢中里スキーリゾート(営業マネージャー)	
	富 沢 誠	株式会社プリンスホテル かぐらスキー場(営業リーダー)	

【スキー観光活性化委員会】

区 分	氏 名	所属団体役職等	付 記
苗場かぐら観光協議会	佐藤 博 之	苗場観光協会(副会長)	
	関 拓 真	かぐら・みつまた観光協会(会計担当役員)	
湯沢つちたる観光協議会	長谷川 学	松川観光協会(会長)	
	田 代 美 知	飯土高原・原観光協会(会長)	
湯沢・神立地区観光協議会	田 村 昌 樹	(一社)越後湯沢温泉観光協会(理事)	
	竹 添 慎 哉	(一社)越後湯沢温泉観光協会(理事)	
湯沢町スキー場振興協議会	夏 目 卓 弥	株式会社プリンスホテル 苗場スキー場/かぐらスキー場(支配人)	委員長
	高 橋 貴 幸	湯沢高原株式会社 湯沢高原スキー場(施設課長)	

【インバウンド誘致委員会】

区 分	氏 名	所属団体役職等	付 記
苗 場 か ぐ ら 観 光 協 議 会	金 澤 健 太	苗場観光協会(理事)	
	五十嵐 修 司	株式会社プリンスホテル 苗場プリンスホテル(営業リーダー)	
湯 沢 つ ち た る 観 光 協 議 会	高 橋 真 二	湯沢パーク観光協会(会長)	
	角 谷 修	中里観光協会(理事)	
湯 沢 ・ 神 立 地 区 観 光 協 議 会	井 口 智 裕	(一社)越後湯沢温泉観光協会(理事)	
	田 村 恵 一	(一社)越後湯沢温泉観光協会(料飲店部会)	
湯 沢 町 ス キ ー 場 振 興 協 議 会	富 沢 恒	富達観光株式会社(取締役社長)	
	駒 形 大 樹	株式会社プリンスホテル 苗場プリンスホテル(営業企画リーダー)	

【検討委員会】

区 分	氏 名	所属団体役職等	付 記
苗 場 か ぐ ら 観 光 協 議 会	関 秋 光	かぐら・みつまた観光協会(副会長)	
	師 田 富士男	苗場観光協会(理事)	委員長
湯 沢 つ ち た る 観 光 協 議 会	横 田 利 雄	岩原観光協会(監事)	
	南 雲 敬 一	中里観光協会(副会長)	
湯 沢 ・ 神 立 地 区 観 光 協 議 会	岸 野 裕	(一社)越後湯沢温泉観光協会(総務委員長)	
	綿 貫 靖 夫	(一社)越後湯沢温泉観光協会(理事)	副委員長
湯 沢 町 ス キ ー 場 振 興 協 議 会	星 野 透	株式会社ス・マイルリゾート 湯沢中里ス・マイルリゾート(総支配人)	
	南 雲 康 男	ライフスタイルサービス株式会社 岩原スキー場(管理事務長)	
湯 沢 町	南 雲 剛	湯沢町産業観光部(部長)	

第 四 号 議 案

第 8 期（平成 3 0 年度）における当協会の借入金限度額は次のとおりとする。

記

借入金限度額 1 0 , 0 0 0 , 0 0 0 円

以上